

A. 主な動き

1. 内政

- ・16日、民主党は、第7回党大会を開催し、ルプ党首の再選を決定。また、ブラホトニク議会議長を同党第一副党首に選出。
- ・21日、ティモフティ大統領は、ツィンバリユク法律問題兼国際関係担当大統領補佐官を任命。

2. 経済

▼IMF

- ・18日、モルドバ政府は、フィラト首相がスネルIMFモルドバ駐在事務所長と会談を行い、モルドバ地域の財政・経済情勢についての意見交換を行うとともに、前回のモルドバへのIMFミッションを受けてのモルドバへの財政支援プログラムの実施について議論し、その中で同事務所長は本支援のために想定されるコミットメントの実施の重要性を挙げた旨報告。

3. 外政

▼ルプ議会議長の米国訪問(18～22日)

- ・21日、米国訪問中のルプ議会議長は、ワシントンにおいてペイナー下院議長と会談。両議長は、モルドバ国内における政治・経済改革実施状況、大統領選出後の内政状況の変化及び両国関係強化に関し幅広く協議。ペイナー議長は、米国はモルドバの民主化及び欧州統合に向けた改革の支援を継続する旨表明。ルプ議長は、モルドバは今後も沿ドニエストル紛争解決のための「5+2」者交渉における米国の支援を期待している旨発言。
- ・同日、ルプ議会議長は、ゴードン米国務次官補(欧州・ユーラシア担当)と会談。ゴードン国務次官補は、モルドバは多くの民主主義的改革を達成した旨述べ、米国はEUと共に「5+2」者交渉に積極的に関与する意向である旨発言したのに対し、ルプ議長は、モルドバは米国との貿易関係強化を希望している旨発言。

▼その他

- ・19日、カルムイク経済省次官は、モルドバとEUのDCFTA交渉は2013年末に終了し、署名を経た後、モルドバ及びEU27カ国議会において批准され、2014年末に発効する見

通しである旨発言。

4. 沿ドニエストル

▼フィラト首相・シェフチューク「大統領」の会談

- ・20日、フィラト首相及びシェフチューク「大統領」は、独ロタッハ・エガーンにおいて会談。同会談は、OSCE主催による「沿ドニエストル紛争解決過程における信頼醸成の強化」会合(20～23日)の枠内で実施され、カルポフ国家再統合問題担当副首相、シュタンスキ「外相」、ハーベル独外務次官及び「5+2」者会合の関係代表者が出席。本会合において作業部会の活動結果を含む「5+2」者会合における合意の実施状況を確認。フィラト首相は、文化関係・人的交流の活発化を指摘し、達成された合意事項は着実に実施され、交渉参加者間の信頼は強化されている旨及び個別の技術的問題は今後作業部会において協議される旨発言。これに対し、シェフチューク「大統領」は、全ての合意事項が実施され、相互の信頼が形成されているとし、フィラト首相との協力関係に満足している旨発言。

▼その他

- ・18日、シェフチューク「大統領」及びシュタンスキ「外相」は、モスクワを訪問し、ロゴジン露副首相兼沿ドニエストル担当露大統領特使と会談。双方は、沿ドニエストル社会・経済状況及び沿ドニエストル・モルドバ関係の正常化問題に関し協議。

5. 防衛

- ・20日、ストイアン参謀総長兼軍司令官は、クロアチアで開催されているNATO主催戦略的パートナー会議に出席、軍改革等のNATOシカゴサミットでの結論について議論。
- ・21日、モルドバ議会は、モルドバ領空における違法航空機対処に関する法律を採択。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)